

第4回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議 「生物多様性の恵みを感じるまち大阪の将来像」

- ①企業が創る多様な主体のネットワーク：企業とNPO、学校など、新しい連携による生物多様性普及啓発の場の創出（大阪城公園でのパートナーシップ）
- ②高校教員との連携、リーダー育成：生物科目教員などの啓発の場創出による生物多様性普及リーダー育成（2023年8月開催予定の大阪での日本生物教育会の全国大会を目指して）
- ③環境教育プログラムを利用した身近な自然体験：公園や学校など身近な自然での環境教育プログラムの実施
- ④社会教育施設の活かし方（行政への情報蓄積）：大阪の生物調査データの集約、蓄積の仕組みづくり（生物多様性モニタリングへの活用）
- ⑤日々の暮らしに生物多様性の恵みを取り込むアイデア：暮らしに盛り込むアイデア出しと、広く普及する方法の考案

環境省や大阪府の絶滅危惧種が大阪市内にも住んでいると聞くと意外に思われる方も多いかもしれませんが、その多くは、普段の暮らしの中でお目にかかることは滅多にありませんが、昆虫の絶滅危惧種の中には、公園や住宅地で目撃される例も結構あります。ここでは、見つかる可能性のある絶滅危惧種のトンボとチョウをいくつか紹介したいと思います。

●トンボ

かつて湿地の環境が広がっていた大阪平野には、今でも多様なトンボ類が見られます。ナニワトンボ（環境省・大阪府絶滅危惧Ⅱ類）は、秋に多く見られる赤とんぼの仲間で、オスは全身が青色になるので、「青い赤とんぼ」としても有名です。各地で絶滅していますが、生息場所となるため池の多い大阪府では南部を中心に比較的生息地が残っています。移動力があるのか、これまでいなかった場所でも突然見つかることがあります。大阪市内でも公園の池などで見つかっています。

ほかにも、淀川下流のヨシ原で昔から生息が知られているヒヌマイトトンボ（環境省絶滅危惧ⅠB類・大阪府絶滅危惧Ⅰ類）や、オオサカサナエ（環境省・大阪府絶滅危惧Ⅱ類）、オオキトンボ（環境省絶滅危惧ⅠB類・大阪府絶滅危惧Ⅰ類）、メガネサナエ（環境省・大阪府絶滅危惧Ⅱ類）、ホンサナエ（大阪府絶滅危惧Ⅱ類）、キイロヤマトンボ（環境省準絶滅危惧・大阪府絶滅危惧Ⅰ類）などが淀川沿いを中心に発見されているので、近くの公園や住宅地にもやってくるかもしれません。



ヒヌマイトトンボ
絶滅危惧Ⅰ類
写真：森岡賢史撮影



ナニワトンボ
絶滅危惧Ⅱ類



オオサカサナエ
絶滅危惧Ⅱ類
写真：武田啓子撮影

「おおさか生物多様性パートナー協定」

背景

- ◆「大阪21世紀の新環境総合計画」(H23)
民間事業者による生物多様性全の取組みを促進
- ◆「生物多様性国家戦略2010-2020」(H24)
行政、事業者、専門家による「連携と協働」の仕組み、科学的知見を共有した活動が必要

目的

生物多様性保全活動に取り組む企業を大阪府及び大学・試験研究機関等が連携して支援するとともに、府が当該企業のPRや推奨を行うことで、企業の自主的な生物多様性保全活動を促し、企業価値の向上を図る。

制度の概要

STEP 1



企業

相談



大阪府



情報提供、助言

生物多様性の保全に取り組みたいけど、何をすれば・・・。

活動内容等の
協議・調整

専門機関のアドバイスを
受けながら取り組める
制度がありますよ！

積水ハウス（株） 新梅田シティ「新・里山」



伊丹市 生物多様性交流フェスティバル

平成29年度

生物多様性に関する取組を実施している学校・団体等による活動の発表・交流会を、伊丹市昆虫館にて行います。
申込み・参加費不要ですので、ぜひお気軽にお越しください。

8月20日(日)は、
昆虫館 入館料無料

口頭発表

8月20日(日) 午前10時～12時 昆虫館・映像ホール

コーディネーター：武田 義明 氏 (伊丹市昆虫館運営協議会 会長・神戸大学 名誉教授)

団体名	発表テーマ
伊丹市立荒牧中学校 科学部	川から学んだ自然の大切さ (武庫川水系の環境調査)
伊丹市立伊丹高等学校 生物部	指標生物から見た猪名川の水質
兵庫県立尼崎小田高等学校 科学研究部 生物班	武庫川および昆陽池における野鳥観察調査と遺伝子解析
兵庫県立伊丹北高等学校 自然科学部	黒池・西池に生息する亀類の調査
兵庫県立川西明峰高等学校 理科部	伊丹市昆陽池・武庫川のユリカモメ
伊丹市立中学校理科担当者会	伊丹市全域におけるツバメの営巣調査

ポスター展示

8月20日(日) 昆虫館・特別展示室 他

伊丹市生物多様性交流フェスティバル



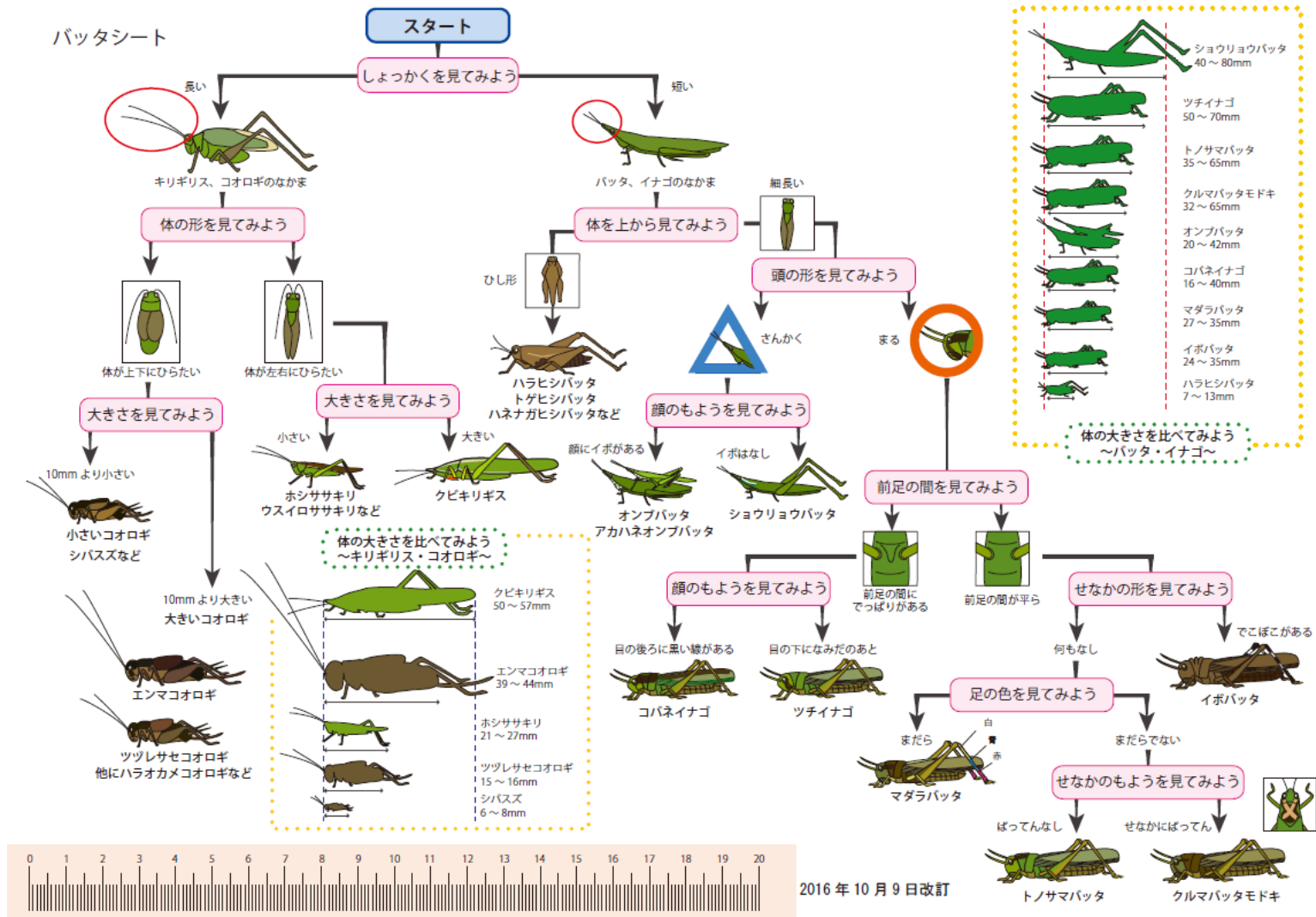
毎度お世話になっております、「マイスター講座」卒業生のポスター発表も。



日本昆虫学会 2016年 昆虫じまん

③環境教育プログラムを利用した身近な自然体験

・堺市バッタ授業、ドングリ



③環境教育プログラムを利用した身近な自然体験

・堺市バッタ授業、ドングリ

生きもの調査（バッタ）第3学年 学習指導案（案）

めあて：

- ・複数種のバッタ類を観察、比較し、形態やすみかの共通点や差異点に気づくことができる。
- ・バッタ類を材料に、生きものの特徴を調べ、生きものの多様性に気づくことができる。
- ・バッタ類を通して、身の回りの生きものと環境との関わりについて興味を持ち、考えようとする。

	学習活動・内容	指導
導入 (45分)	○昆虫、バッタ類の体のつくり、形態について(15分) T: 今日(今回)は外でバッタを探して観察します。バッタを見たことある人。バッタを探したことある人。バッタを触ったことがある人。 C: (反応…捕まえたよ。触れない。) T: みんな見たことはあるんだね。じゃあ前を見て。(番号を付けたいいくつかの昆虫の写真を提示して) どれがバッタでしょう。 C: (答える…①番、③番、など) →答えた番号の写真を移動させる。	写真: セミ、カブトムシ、カマキリ、カマドウマ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタなど(バッタは複数種入れる) バッタ(目)というグループの中の

堺市の取り組み

- 堺生物多様性センター

「堺いきもの情報館」

ウェブサイト→



<http://www.sakai-ikimono.jp/>

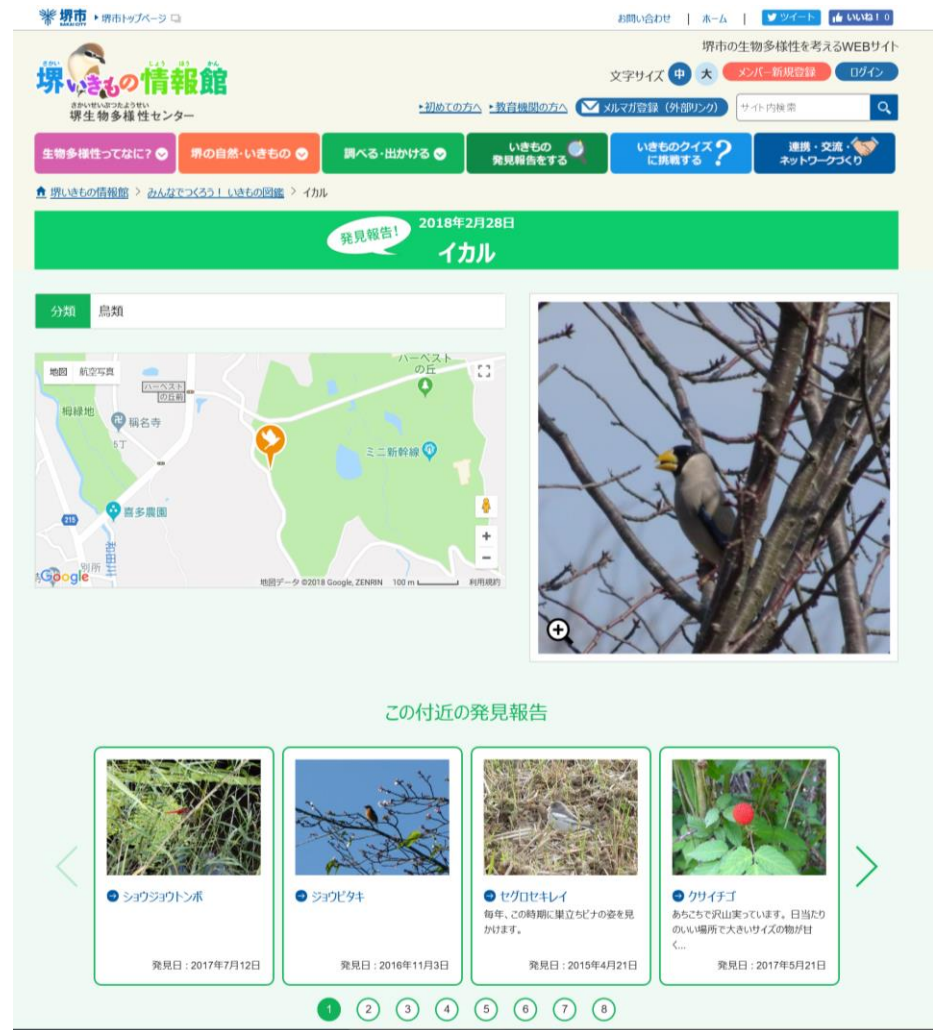
堺市の取り組み

- 堺生物多様性センター

「堺いきもの情報館」

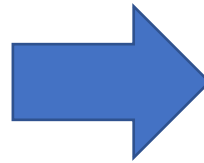
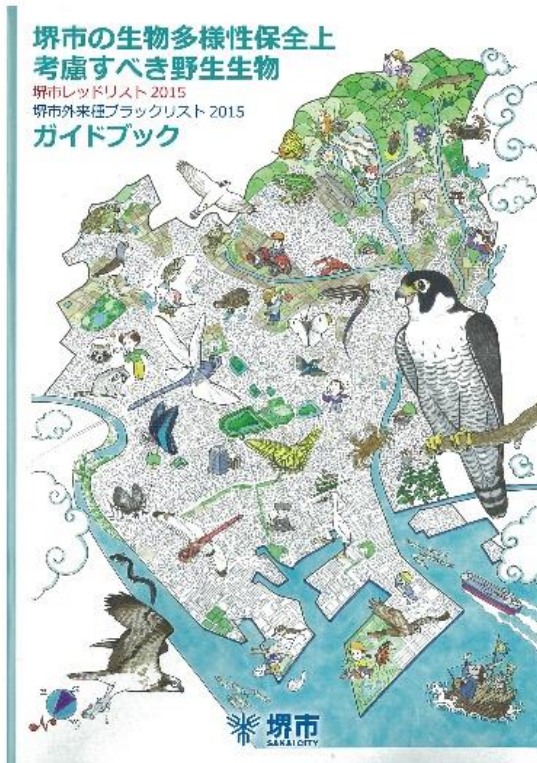
生き物発見報告

市民参加のモニタリング



<http://www.sakai-ikimono.jp/>

堺市レッドリスト改訂



堺市レッドリストは2021年に改訂！
(2021年3月に完成予定)

①企業が創る多様な主体のネットワーク：企業とNPO、学校など、新しい連携による生物多様性普及啓発の場の創出（大阪城公園でのパートナーシップ）

- ・ トンボの連携
- ・ 大阪府生物多様性パートナー協定

②高校教員との連携、リーダー育成：生物科目教員などの啓発の場創出による生物多様性普及リーダー育成（2023年8月開催予定の大阪での日本生物教育会の全国大会を目指して）

- ・ 自然史フェスティバル
- ・ ECO縁日

③環境教育プログラムを利用した身近な自然体験：公園や学校など身近な自然での環境教育プログラムの実施

- ・ バッタ授業、ドングリ

④社会教育施設の活かし方（行政への情報蓄積）：大阪の生物調査データの集約、蓄積の仕組みづくり（生物多様性モニタリングへの活用）

- ・ ウェブサイトの活用
- ・ 大阪市レッドリストの作成

⑤日々の暮らしに生物多様性の恵みを取り込むアイデア：暮らしに盛り込むアイデア出しと、広く普及する方法の考案

- ・ 生物多様性ショップ
- ・ 全部大阪市産で作ろう！